



12	8 ～ 10	プがトラックと正面衝突した後、トラックの後続車であったワンボックス車にも正面衝突し、ワンボックス車はそのまま側溝（深さ約1m）に転落した。ワンボックス車を運転していた労働者は死亡した。	170209	221	17	～ 29
12	8 ～ 10	被災者は事業主、同僚とともに古紙の回収作業に従事していた。古紙を回収後、事業主が訪問先とは反対側の車線に自社保有のトラックを移動させ、被災者は同僚とともにトラックの後方付近で出発準備等を行っていたが、道路を横断しようとして走行車線へ飛び出したところ、走行していたトラックに轢かれたもの。	150109	221	17	1～ 9
12	12 ～ 14	被災者は、道路工事現場で作業中、通行中の大型トラックに轢かれ死亡した。大型トラックは、道が狭いため後進で走行している最中、工事現場にさしかかったところで、大型トラックの後部で被災者を轢いたもの。	30199	221	17	1～ 9
12	0 ～ 2	建設現場に資材を搬入するため、トラックに資材を積んで移動中に、高速道路上で交通事故にあったもの。	30201	221	17	10 ～ 29
11	16 ～ 18	災害発生当日、被災者を含む3名の労働者は、工事現場の交通誘導業務に従事していた。業務を終了後、事業場事務所に移動していたところ、被災者が運転する軽トラックが法面に乗り上げて横転した。その後、軽トラックは電柱に追突し、被災者は電柱と軽トラックに挟まれた。	170201	221	17	30 ～ 49
11	18 ～ 20	被災者が運転していた4トントラックが、別事業場の労働者が運転していた10トントラックに追突された。	40301	221	17	10 ～ 29
10	4 ～ 6	被災者が3tトラックにて建設資材（アスファルト合材2.9t）を運搬していた際、トラックが歩道に乗り上げ、道路標識に衝突した。	30110	221	17	1～ 9
		自動車道の夜間集中工事にて、下り線の車線規制解除するために、				

10	6 ～ 8	ラバーコーンをトラック荷台後方に付設した専用の搭乗設備に乗って回収していたところ、コーンを2つ回収したところで作業者が転落した。トラックは徐行しながら後進していたため、右後部タイヤ部分で轢かれたため死亡したもの。被災者はヘルメット着用していた。	170201	221	17	10 ～ 29
10	10 ～ 12	被災者は、肥料用タンクローリー（ポテトジュースと呼ばれる肥料となる澱粉の搾り汁を積載）を運転し、近隣農家の畑に肥料をまく作業に従事していた。タンクローリーが踏切を横断しようとしていたところ、快速列車（一両編成）と助手席側から衝突したもの。被災者は搬送先の病院で3日後に死亡した。なお、列車の運転手に怪我はなく、その他、乗客1名が軽傷を負った。	10109	221	17	50 ～ 99
10	12 ～ 14	高速道路上で、加害者の運転するトラックが集中工事のための渋滞で停車していた被災者の運転するトラックに衝突し、その勢いで被災者のトラックがさらにその前方に停車していた大型トラックに追突したもの。	80109	221	17	1～ 9
10	14 ～ 16	被災者は製品配達のためトラックを運転中、路肩に停車していた大型トラックに衝突した。	10503	221	17	30 ～ 49
10	8 ～ 10	ゴミステーション内にある一般家庭ゴミを収集するため、塵芥車を傾斜がある道路上に止め同僚と収集作業を行っていたところ、塵芥車が後方に動き出し被災者が車両の下敷きとなったもの。	150102	221	17	10 ～ 29
10	12 ～ 14	最大積載量16800kgのミルクタンクトレーラーに生乳を積載して輸送中、横断道路の交差点に右折進入したところ、曲がりきれず、道路左側の防護壁に衝突し、約10m下の県道にミルクタンクトレーラーとともに転落したもの。	50209	221	17	30 ～ 49
9	14 ～ 16	運搬先事業場前の道路上にて駐車中の自車トラックの後方で荷物の積み込み作業を行っていたところ、後方より別のトラックに追突され、自車、相手車に挟まれ死亡した。	40301	221	17	10 ～ 29

9	2 ～ 4	被災者は、バイオマス発電所に燃料となる木質チップを運ぶため、最大積載量約30t（積載量約16t）の大型トレーラーを運転し、自動車道（下り線）を走行中、99.1キロポスト（kp）付近に差しかったところで、道路左側のガードレールに接触し、右側面（運転席側）を下にして横転した。被災者の右腕が車体の下敷きとなり、圧迫による外傷性窒息で3時間半後に死亡した。	150103	221	17	10 ～ 29
9	16 ～ 18	県内で機器の搬入と設置を終え、帰社するため高速道路を走行中、トンネル内の非常停止帯で車両が左側に寄り、そのままトンネル壁に激突したものの。	11209	221	17	1～ 9
9	16 ～ 18	道路施設設置工事で使用していた4tダンプトラックをリース会社に返却するために県道を走行していたところ、何らかの原因でトラック左車輪が側溝にはまり、側溝から抜けるために右方向へハンドルを切った先に勢い余って反対車線のガードワイヤーを突き破り、崖から約37メートル墜落したものの。	30199	221	17	1～ 9
9	16 ～ 18	被災者は荷主に書類を届けた後、帰社するため自車の駐車場所に戻ろうと、道路を徒歩で横断していた。その際、横断経路左側の路肩に停車していたトラクターヘッドが後進して被災者を轢過したため、外傷性ショックにより死亡したものの。	40301	221	17	10 ～ 29
9	12 ～ 14	自動車道を進行中の大型トレーラーが、ガードレールを突き破り約5メートル下の斜面に転落し、運転席に乗車中の被災者が死亡したものである。（単独事故、現場は下り勾配の右カーブ）	40303	221	17	1～ 9
9	2 ～ 4	被災者が運転する3トントラックが直進し、交差点に進入したところ、対向車線から右折してきた軽自動車と衝突した。被災者のトラックはその衝撃で道路脇にある街路樹に衝突し全身打撲により死亡した。	40301	221	17	10 ～ 29
9	14 ～	被災者は配送先の在宅確認を終え、配送する荷物を取りにトラックに向かう途中、走行してきた軽トラックにはねられ、約1時間後に	40301	221	17	30 ～

	16	死亡が確認されたもの。				49
8	4 ～ 6	被災者は同僚1名と工事進捗管理業務を終え、事務所に戻るためトラックで国道を走行中（片側2車線の左カーブ）、対向車線を走行していた大型トレーラーと正面衝突した。トラックに乗り込んでいた2名が全身を強く打ち死亡。大型トレーラーの運転手1名が左手足を打撲した。	40101	221	17	50 ～ 99
8	4 ～ 6	被災者は同僚1名と工事進捗管理業務を終え、事務所に戻るためトラックで国道走行中（片側2車線の左カーブ）、対向車線を走行していた大型トレーラーと正面衝突した。トラックに乗り込んでいた2名が全身を強く打ち死亡。大型トレーラーの運転手1名が左手足を打撲した。	40101	221	17	50 ～ 99
8	10 ～ 12	魚市場で大型トラック（ウイング車、積載量10トン）に鮮魚10トン積み込み水産会社に向け自動車道を走行中、インターチェンジの出口の左カーブで右側ガードレールに衝突して横転した。被災者は運転席に挟まれ約1時間30分後に救出され、病院に搬送されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。	40301	221	17	30 ～ 49
8	16 ～ 18	駐車場から土場の事業場事務所まで徒歩にて移動中、ガード下の横断歩道で右折トラックに跳ねられ、死亡したもの。	30199	221	17	10 ～ 29
8	16 ～ 18	現場は片側一車線の直線道路。事故当時、家畜運搬車（以下A）は国道を下り方向に走行していたところ、対向車線を走行していたトレーラー（以下B）が迫っている中でAの前方を走行していた乗用車を追い越したことで、対向車線のBが右にハンドルを切り下り車線にはみ出したところ、Aも本来の走行車線（下り車線）上に戻ったため衝突し、Aの助手席にいた被災者が出血性ショックのため死亡したもの。	40302	221	17	10 ～ 29
	12	被災者は同僚と2人でごみ収集作業を行っていた。被災者がごみ集積場でごみを収集車に積み込み、徒歩で次の収集場所へ移動してい				100

8	～ 14	たところ、左折したごみ収集車にひかれた。被災者は、近道しようとして住宅駐車場のチェーンを跨いだ際に、足を引っかけて倒れ、ごみ収集車にひかれた。	150103	221	17	～ 299
8	14 ～ 16	片側交互通行規制された道路工事現場において、赤信号を無視して走行してきた軽トラックが、路肩のガードレールに激突した反動で工事区域に弾き飛ばされ、工事区域内に設置されたテント内で交通監視業務（仮設信号機の作動、保安用資材等の点検確認作業）を行っていた被災者に激突した。なお、現場には、ブレーキ痕は残されていない。	170201	221	17	10 ～ 29
7	0 ～ 2	特定貨物運送業務（ダンプで残土運送）に従事中、残土捨場敷地内（受付事務所到着前）の4車線道路上でダンプを止め降車し、荷台の残土養生用シートを外し、同車後方2～3mで、当該シートを折り畳み丸めていたところ、後方から来た別会社のダンプにひかれ、轢死した。	30309	221	17	10 ～ 29
7	14 ～ 16	災害復旧工事清掃作業のため、事業場から所在する店に、同僚が運転する社用車の2tトラックの助手席に乗り向かっている途中、渋滞で停車していた前方の自動車3台に追突した。運転手は軽傷であったが、被災者は外傷性窒息のため死亡した。	150101	221	17	1～ 9
7	10 ～ 12	被災者がトラックの助手席に乗っていたところ、当該トラックが別のトラックに追突し、死亡したもの。	40301	221	17	10 ～ 29
7	2 ～ 4	大型トラックに、後方より牛乳輸送営業所の運転手が追突した。当該運転手は全身を強く打ち死亡した。	40301	221	17	100 ～ 299
7	12 ～ 14	高速道路の出口付近において、被災者運転のタンクローリーがトラックに追突した。なお、被災者は頭蓋骨骨折で死亡し、追突されたトラック運転手は頭部に軽傷を負ったもの。	40302	221	17	50 ～ 99
		高速道路（下り線）の植栽点検の作業中、植栽の異常を発見したこ				

7	12 ～ 14	とから路肩に車を停めて降車し、車両の進行方向とは逆方向に向 かって徒歩で移動していたところ、加害者の運転するトラックが走 行車線側の法面に乗り上げた状態で被災者の方に向かってきたた め、当該トラックに轢かれたもの。	60101	221	17	30 ～ 49
7	20 ～ 22	3 tトラックを一人で運転して、高速道路下り線を走行中、片側2 車線の追い越し車線から走行車線に移ろうとした際に、走行車線の 10 tトラックに接触した。この反動で中央分離帯側壁に衝突し、 車外に飛ばされ死亡した。	90103	221	17	30 ～ 49
7	10 ～ 12	被災者がトラックを運転し、高速道路のトンネルを走行中、ハンド ル操作を誤りトンネル内の側壁にぶつかり、被災者が車外へ投げ出 されて、トンネルの壁に頭を打って死亡した。	40301	221	17	30 ～ 49
6	6 ～ 8	被災者は、片側1車線の自動車道トンネル内において大型トラック を運転していたところ、対向車線を走行していた大型トレーラガス リップしてハンドル操作不能状態となり、センターラインを越えて 被災者が運転する車線に突っ込んで来たため、被災者が運転する大 型トラックと衝突し、大型トラックを運転していた被災者が死亡し たもの。	40301	221	17	10 ～ 29
6	8 ～ 10	港でコンテナ積みトラックに荷物を積んだ被災者が会社へ戻るため 自動車専用道路を走行中、中央分離帯を越えて反対車線（被災者側 車線）にはみ出してきたトラックと正面衝突した。	40301	221	17	30 ～ 49
6	10 ～ 12	国道沿いにある交通遮断機の点検及び保守業務を行う紀南管内道路 構造物点検業務工事において交通誘導業務を行っていたところ、走 行してきた軽トラックにはねられ、死亡したものである。	170201	221	17	50 ～ 99
6	4 ～ 6	交差点において被災者が運転する4 tトラックが右折待ちの10 t トラックに追突した。10 tトラックは弾みで前の乗用車に衝突 し、3台が絡む玉突き事故となった。被災者は搬送先の病院で死亡 した。10 tトラックの運転者、乗用車の運転者は救急搬送はなく	40301	221	17	10 ～ 29

		軽傷。被災者は配送先から営業所へ戻る途上であった。				
6	2 ～ 4	国道の片側2車線の上り線で、交差点の赤信号停車中の車列に10tトラックが突っ込み、車列最後尾の被災者の3tボックス車、その前の28tトレーラー、その前の10tトラックの計4台の玉突き事故となり、被災者車両は運転席が大破した。被災者は全身打撲の多発外傷で当日、死亡が確認された。	50101	221	17	100 ～ 299
6	14 ～ 16	今後工事の事前調査のため、社有車を直線道路の左端に駐車させ、車を降りていたところ、後方から走行してきたトラックに激突された。駐車時には、ハザードランプを点灯させていた。	30301	221	17	30 ～ 49
6	2 ～ 4	被災者は中型トラックを運転して配送先で荷下ろし後、次の荷下ろし先に向かうために国道を南下していたところ、左カーブでセンターラインを越え、対向してきた大型トラックと衝突した。結果、被災者は死亡し、相手方トラック運転手も足を負傷した。	40301	221	17	1～ 9
6	8 ～ 10	被災者（運転兼回収）一人で事業系一般ごみをパッカー車でルート回収中、幼稚園を訪れた際、同園横の市道に停車させ下車したところ、無人の車両が市道（傾斜3度前後の坂道）を後退し、轢かれて頸椎骨折による頸髄損傷で死亡したもの。車両はその後民家の壁にぶつかりながら後退し、民家の車庫の壁にぶつかって停止（逸走開始から停止まで54秒・約75m）した。	150103	221	17	10 ～ 29
6	16 ～ 18	建設現場における作業を終え、事業場に戻るため社有車（軽トラック）を運転して走行中、左脇に設置してある防雪柵に衝突した。	30199	221	17	10 ～ 29
5	12 ～ 14	事業場から浴室改修工事に軽トラックで向かう途中、片側1車線の農道で、大型トラックと正面衝突したもの。	30203	221	17	1～ 9
5	10 ～	被災者は、土砂を積んだダンプトラックを運転して、本工事の現場から五泉市論瀨のストックヤードへ向けて走行中、運転操作を誤り、反対車線の法面（勾配約30度）から約3m下の道路に転落し	30107	221	17	10 ～



	12	た。					29
4	22 ～ 24	被災者が販促物及び書類を配達先に届けるためワンボックスカーを運転し、自動車道下り車線を走行中、反対車線を走行していた4 tトラックが中央分離帯を突き破り、横転し、被災者の車両に衝突した。その後、被災者の車両に後続の大型トラックが衝突した。二つの衝突のいずれか又は両方により、負傷、死亡に至ったもの。	40301	221	17	～	10 ～ 29
4	0 ～ 2	被災者は、大型の冷凍車を運転し、国道を走行中のところ、交差点において信号待ちをしていた大型貨物自動車に追突し、そのまま道路左側の跨線橋フェンスや橋脚に激突した。	40301	221	17	1～	9
4	14 ～ 16	4名でトラック2台に分乗して現場から移動中、トラックの荷台のほろが外れかけたため道路下り線の路肩に停車して、ほろの取り付け作業をしていたところ、大型トレーラーが追突したもの。	150102	221	17	～	10 ～ 29
4	14 ～ 16	4名でトラック2台に分乗して現場から移動中、トラックの荷台のほろが外れかけたため、道路下り線の路肩に停車して、ほろの取り付け作業をしていたところ、大型トレーラーが追突したもの。	150102	221	17	～	10 ～ 29
4	18 ～ 20	トラックを運転して荷物を運搬中、下り右カーブを曲がり切れず、コンクリート壁に衝突し、車外に投げ出されて死亡した。	60101	221	17	1～	9
3	16 ～ 18	被災者は、警備員として勤務しており、現場を自転車で巡回中、信号のないT字路を横断したところ、左の脇から出てきたトレーラーに引かれ死亡したもの。	150101	221	17	～	50 ～ 99
3	12 ～ 14	被災者が運転するトラックが渋滞で停止していた別のトラック後方に衝突し、被災者が死亡したもの。	40301	221	17	～	10 ～ 29
3	14 ～ 16	粗大ごみの収集を行ったあと町内にあるリサイクルセンターに向かうため、町所有のトラックで走行中、直線道路で運転を誤り、道路左側の建物に衝突して3名全員が被災した。	150103	221	17	～	10 ～ 29

3	12 ～ 14	工事現場での作業が午前中で終了したため、小型トラックに2人が乗車し、工事現場から会社に戻る途中、国道を走行中にゆるい左カーブで道路右側にはみ出し、橋の欄干に激突して道路脇の沢にトラックごと転落した。助手席に乗っていた労働者が死亡し、運転者が軽傷を負った。	30199	221	17	1～ 9
3	6 ～ 8	被災者はドライバー助手として4 tトラックに乗車していた。荷主へ荷物を運搬中に追い越し車線から走行車線へ車線変更する際に、走行車線後方を走る大型トラックに自社の4 tトラック後方部が接触後、4 tトラックはガードレールを乗り越え横転した。備車依頼を行っているため、4 tトラックとドライバーは別事業場の所属である。ドライバーは軽傷であった。	50101	221	17	30 ～ 49
3	6 ～ 8	被災者は、市道において、トラック（最大積載量約10 t）を運転していたところ、路肩に停車していた乗用車の右側面に接触した後市道の左側に流れ、電柱に衝突し、死亡した。	40301	221	17	1～ 9
2	8 ～ 10	鮮魚の販売等の業務に従事する被災者が、業務終了後、保冷車を運転し、本社に戻る途中、保冷車とともに岸壁から海へ転落したものの。	80209	221	17	1～ 9
2	6 ～ 8	準中型トラックを回送する業務を行っていた被災者が、高速道路下り線を走行中、非常駐車帯に停車していた小型トラックに追突し、その衝撃でハンドル等に身体をはさまれ、多発性外傷により死亡。準中型トラックの助手席にいた同乗者が胸骨骨折、小型トラックの車外にいた別事業場の運転手も右腕打撲。	170209	221	17	10 ～ 29
2	4 ～ 6	県道路肩にトラックを停車させて運転席から降り、トラックの前方で立っていたところに後ろからタンクローリーがトラックに追突。トラックが前方に押し出されたことから被災者はトラックタイヤの下敷きとなったもの。	40301	221	17	1～ 9
	6	地下通信ケーブルの夜間工事を終え、作業車で事務所へ帰社するため走行中、トンネルの手前で運転者がハンドル操作を誤り、トンネ				50

2	～ 8	ルの入口外壁に車の左側が衝突したことで車両前方左側が大破、助手席にいた被災者が死亡した。	30301	221	17	～ 99
2	22 ～ 24	被災者は高速自動車道路上をトレーラーを運転し北に向かって走行中、センターラインをはみ出したことにより、反対車線を走行していたトラックと正面衝突した。	40301	221	17	10 ～ 29
1	6 ～ 8	作業現場へ向かうため、代表者が運転する軽トラックに2名乗車で走行中、凍結箇所ですリップし路肩に停車したところ、後続の2台目車両が追突し、後続車両は中央線を越え、道をふさいで停車した。このため、被災者が2台目の車両の前へ行き、後続車に手を振り注意喚起していたが、3台目の後続車も手前でスリップし、被災者側に向かって滑ってきたため、3台目の車両と土留め壁に挟まれ死亡した。	30201	221	17	1～ 9
1	10 ～ 12	被災者は、工事現場の土砂を運搬するため、ダンプトラックを運転し場外の土砂置場に荷降ろした後、空荷で当該工事現場へ走行中、交差点の手前で右車線を走行していたダンプトラックと接触し、その後、赤信号で停車していたダンプトラック（同僚）に追突したものの。なお、2台のダンプトラックの運転手にけがなく、現場は、片側2車線の直線道路で、事故当時の天候は晴れ、路面は乾燥していた。	30107	221	17	10 ～ 29

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210\\_37.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_37.html)